

□ アナリスト週間相場予想

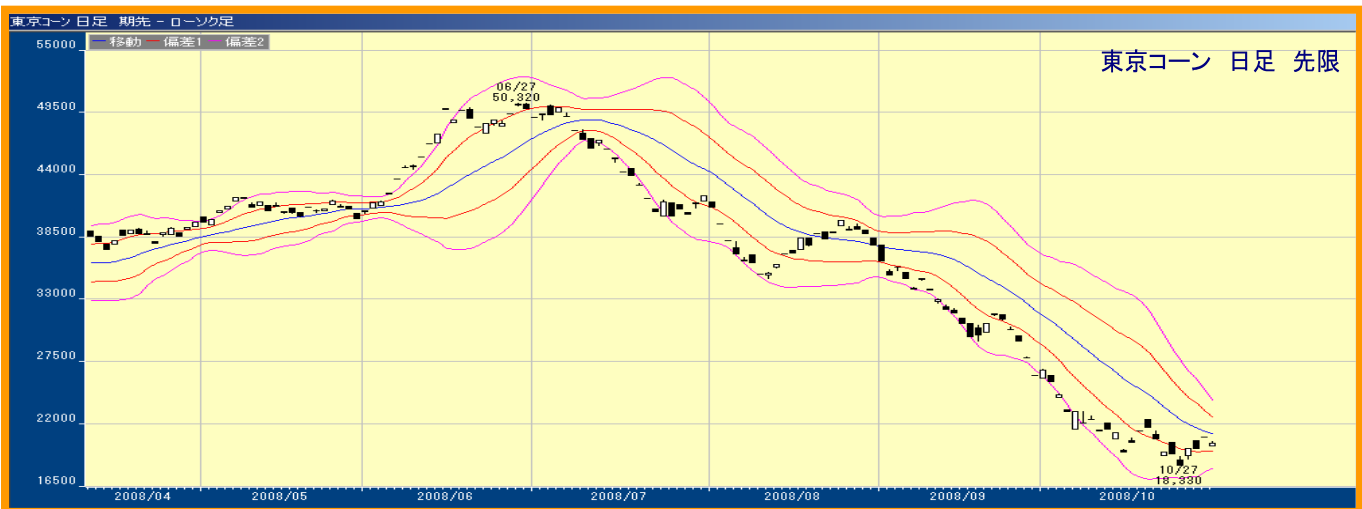
	 コーン Corn	 大豆 Soybean
江崎		
西		

Pick up News

〔注目スケジュール〕

- 11/3 米農務省 (USDA) 週間輸出検証高
USDAクロープ・プログレス
- 6 USDA週間輸出成約高
- 7 米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告

□ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



コーン大豆共にチャートは横這い傾向。ボリンジャーバンドの動きはエナジーセクターと同じく大きな下降波動が一段落したところ。先週の週報に引き続きテクニカルポイントはコーンで22340円・大豆で41000円のレジスタンス。横這いレンジの推移を抜けて上伸に転じるにはこのレジスタンスラインをブレイクアップする必要がある。反対にサポートラインはコーンで18330円・大豆で32550円、下降トレンドを再開する条件としてはこのサポートをブレイクダウンする事が必要であると思われる。ボリンジャーバンドからは他セクター同様大きなレンジ形成とを感じる。よってこの大きなレンジの上限・下限近辺で逆バりを仕掛け、レンジブレイク時にロスカットとトレンドフォロー戦略を開始すべきではないかと感じる。(10/31 14:55現在)

□ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

米農務省が意表を突いて10月需給報告を修正発表した。どうやら基礎データベースと発表データに相違があったようだが、過去の統計には不備はないとのことであり、11月10日発表予定だった需給報告の内容を先取りしたものと受け止めて問題なさそうだ。作付および収穫面積がコーンで100万エーカー、大豆で110万エーカーも下方修正されたことに違和感はあるが、出された数字をベースに考えざるを得ない。

詳細は書ききれないので割愛するが、2008-09年度の期末在庫率だけを見れば、コーンは0.4%低下の8.6%、大豆は0.3%低下の7.0%へと修正されている。事はそう単純でもないのだが、従来よりも在庫は減少するという意味においては、相場の支援材料となる。

米国ではコーンの収穫はまだ中盤で、収穫スピードの良し悪しに加えて、イールド(単収)にはまだ見直しの余地が残っている。地場からは上方修正の可能性をほのめかすような情報も伝わってくるため、コーンは需給報告修正だけでは買いに転じるのは難しそうだ。海上運賃の下落もまだ続いており、シカゴ相場が底固めに転じたとしても為替次第の様相が強まる。ファンドの買い越しポジションもまだ結構残っている。

対して、大豆は需給報告の修正の影響は軽微としても、ファンドのポジション整理に一巡感が出ていることが支援材料となりそうだ。相場下落で南米物の出回りが鈍くなるとの期待感もある。まだこちらも買い転換したとは言いきれないものの、原油相場の下げ止まりと為替の安定を条件にすれば、大豆から立ち直る可能性は強いと言えよう。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

RE0066 (許可取得日08/10/31)